

連載：原点

個に応じた指導

市川東高等学校 吉田 航一郎

私は千葉県内の中学校、高等学校で「ちば！教職たまごプロジェクト」に参加した経験もあり、様々な生徒を見てきました。これらの経験の中で、「個に応じた指導」の大切さを学びました。生徒一人一人が自分のよさを生かし、豊かな自己実現を図れるよう、個々の能力や適性、興味・関心等の特性に応じた指導を実践するためにどうしたらよいか、常に考えています。

教員のスタート地点に立ち約5ヶ月が経ちました。生徒への指導経験はあったものの、毎日が試行錯誤の連続です。改めて初任者として指導する立場となり、感じたことについて今までの経験を踏まえつつ、今後の展望について「個に応じた指導」を軸に述べていきたいと思えます。

私が講師の時、ある先生から「授業では、教師が何を伝えたいかを明確にする必要があります、同時に生徒が何を知りたいのかを汲み取ることが大切だ。」というアドバイスを受けました。私は当時このアドバイスを聞いた時、「生徒が知りたいこと」＝「問題の解法、公式」だと思っていました。「全ての生徒は数学ができるようになるため、様々な問題が解けるようになればいい」という捉え方です。しかし、授業を実際に行なってみて、「生徒が知りたいこと」とは、そんな画一的なことではないと気づきました。「生徒が知りたいこと」は生徒一人一人違って、そのような生徒に対して指導する上で大切なことは、「個に応じた指導」であるということです。それに気づいてからは、「個に応じた指導」を実現するためにどうしたらよいかを考える日々が続きました。

「個に応じた指導」を実践するにあたり、生徒の実態把握が必要不可欠です。そこで私は、毎授業の最後に、その日に学んだ内容の演習問題を中心とした小テストを行ってみることにしました。構成としては、標準的な問題を5問と最後に自由記述欄があるといったものです。自由記述欄には授業で分かったこと、分からなかったこと、質問など様々なことを書いてくれました。生徒たちの率直な意見や考えを随時得られることで、生徒の理解度や悩みなどの実態把握を行うことができました。そして、演習時間や空き時間に個別にフォローしたり、クラスに応じた授業改善など「個に応じた指導」の実践ができてきました。

最後に「個に応じた指導」を生徒たちへ行うために、私が心がけていることを述べたいと思います。学校生活の中で生徒たちは、授業だけでなく部活動や生徒会活動、委員会、係など様々な場面や役割に応じて様々な姿を見せてくれます。生徒たちのことを多面的に理解し、個の背景や考えを踏まえた指導をすべく、私は、学級や部活動、生徒会活動等に積極的に関わるようにし、できるだけ生徒たちと接する時間を長くするようにしています。また、教員間の連携、情報共有を重視し、組織としての対応を常に意識しています。まだまだ経験が浅いこともあり、分からないことや判断に迷うことがあります。そういった時は、一人で抱え込むことなく、経験豊富な諸先生方に相談することこそが、最も生徒たちのためになると感じています。

様々なことを経験でき、充実した研修制度のもと、手厚く指導していただける今だからこそ能動的に学び、学年や分掌の仕事を経験し、積極的な姿勢で物事を吸収して「個に応じた指導」の更なる追究を行なっていきたいと思えます。